

活動テーマ

渋川にすむ生き物を探そう

実践事例について

全学年が生き物テーマ(1・2年生・草花、3年生・昆虫、4年生・ビオトープ、5年生・魚、6年生・渋川に昔いた生き物)を決めて、渋川学区の「生き物さがし」を実施した。各学年で活動のまとめをし、環境委員会では各学年の活動報告をまとめた「渋川いきものがたりBOOK」を作成した。

1 本校の環境教育について

(1) 重視するポイント

本校の環境教育のポイントは、持続可能な発展のための教育、ESDの視点に立った環境教育のプログラム開発を進めるということである。

ESDの視点に立った環境教育を進める上で、3つの「つながり」を大切にしている。その3つの「つながり」とは、教材の「つながり」、人の「つながり」、能力・態度の「つながり」である。

(2) 3つの「つながり」について

ア 教材の「つながり」

教材間の「つながり」を意識して取り組めるようにと、全学年がESDカレンダーを作成し実践している。ESDカレンダーとは、学年毎に、1年間の教育の中で、各教科・総合的な学習の時間・特別活動等がどのように結びついているのか、カレンダーに項目を示し、その関連を分かりやすく結んだものである。ESDカレンダーには、その学年のめざす子ども像や指導のねらい、持続可能な社会づくりの構成概念の何にあてはまるか明記してある。また、矢印を使って、教材同士の「つながり」を一目でわかるようにしてあり、教師はそのつながりを意識して授業に臨んでいる。1年生から、6年生までのESDカレンダーを一覧すると、本校の環境教育の学びの系統性や関連性も確認することができる。

イ 人の「つながり」

学びの中で子ども同士の「つながり」

を大切にしている。体験後に、いかに子ども同士を交流させ、個々の気づきをみんなのものにするのかという課題のもと、授業の在り方やスキルについて研究をしている。また、積極的に人材を活用し、学習の中で地域内外の人や世代を越えた人との「つながり」も積極的に取り入れている。

ウ 能力・態度の「つながり」

ただ体験を通して地域や生き物についてを調べるだけではなくて、調べて気づいたことやわかったことをまとめたり、それをもとに身近な環境について考えたり、行動に移したりする態度の育成を目指している。

2 【事例】全校で行う生き物さがし

(1) 単元全体の流れ(全学年対象)

ア 昔の渋川を描いた絵図を見て、昔は生き物が身近にいたことや人々が自然と関わった暮らしをしていたことに気づく。そして、今の渋川には、どんな生き物がいるか調べる計画を立てる。

イ 各学年が生き物テーマを決めて「生き物さがし」を行い、環境委員会からの呼びかけに応じ、渋川いきものがたりBOOKにまとめることにする。

ウ 全学年が、春・夏・秋に地域に出かけて行き「生き物さがし」を実施する。

エ 見つけた生き物を紹介する展示物を作り、「渋川ESDミュージアム」を開館して地域の人々に伝える。

※子どもの学習を支援する組織

子ども代表・地域代表・教職員で組織する「渋川いきものがたり作成支援委員会」

を立ち上げた。

支援委員会は、学年からの要請に応じて、地域の方とのつながりを活かし、子どもたちの活動をサポートできる体制を整えた。

(2) いきものがたりかるた、紙芝居、BOOKの完成

それぞれの学年で取り組みのまとめを行う中、5年生では環境委員会からの生き物さがしの依頼を受け、学年で結成した生き物学習実行委員会の提案により、川での生き物さがしやフローティングスクールに関連した琵琶湖学習を通して学んだことをかるたにしてまとめた。そして、他学年や地域の方と一緒にかるたで遊びながら、タブレットパソコンで生き物の画像を見せて説明をし、学んだことを広めることができた。また、琵琶湖の魚であるニゴロブナを使ったふなずしを地域の川魚料理店のご主人に教わりながら自分たちで漬け、試食会を開き、地域の人たちと共に味わった。このことから、普段はあまり目にするものない地域の川にいる生き物に目を向け、それらが昔から地域の人々に大切にされていたことを知り、自らもその環境や郷土料理を受け継いでいくことの大切さを感じることができた。また、6年生では地域の方から昔の渋川にいた生き物についてのお話を聞き、それらの生き物をテーマにした、いきものがたり紙芝居を作った。紙芝居作りを通して、渋川に昔いた生き物が豊かな自然環境の中で暮らしていたことを伝え、これからの地域の環境について考える機会となった。また、環境委員会では各学年の見つけた生き物を集約した、いきものがたりBOOKを作成した。今後の地域での生き物さがしの際に活用していきたい。

(3) 成果

草津市内でも最も都市化された地区の一つである本校区において、全学年がテーマを決めて生き物を探す学習を実施した。実際に生き物調査に出かけてみると、たくさんの生き物がいることに気づき、子どもたちは、生き物と関わったり、体験をもとにかるたや紙芝居を作り、地域の人々と交流したりすることを通して、地域の人々とのつながりも深ま



いきものかるたで交流する

り、地域への愛着を深めることができた。

(4) 課題

子どもたちが作った「渋川いきものがたりかるた」や「渋川いきものがたり紙芝居」「渋川いきものがたりBOOK」は、大切にしていきたい。昨年度作ったものは環境委員会から各学年へと引き継いだ但、活用状況は芳しくない。どのように活用していくかが課題である。

全学年が生き物さがしを実施し、今後も地域を扱う環境教育を推進していく上では、教師が地域や生き物への見識を深める必要がある。また、どのように地域の人々の協力を得て、地域学習を深めていくかも課題である。ESDミュージアムなど取り組みの成果がわかる場を大切にし、子どもの学びを発信していく必要がある。

3 エコスクールの取り組みを振り返って

子どもたちは、生き物さがしを通して、地域の環境について考え、「ふるさとのすばらしさ」に気づくことができた。本校の環境教育は、持続可能な地域づくりやそれを担う人材育成の場であると捉え、実践を深めてきたが、今後もその視点を大切にしながら、継続的・発展的な取組を目指したい。

| | |
|--------|---------------------------|
| 学校名 | 草津市立渋川学校 |
| 住所 | 草津市西渋川二丁目8-55 |
| 電話番号 | 077-566-6116 |
| E-mail | info@shibukawa-p.sk.ed.jp |